

A panel discussion on nutraceutical approach to health and disease

肝炎編 Hepatitis

肝炎患者に対するバイオ・ノーマライザー投与について研究報告



ナタリア ベリエヴァ 教授 医師 医学博士
(ロシア)

ロシア高等医学教育大学 学部長
ロシア医師会、感染症学会の会員

ウイルス性肝炎の複雑な治療におけるバイオ・ノーマライザーのような免疫調整剤の使用

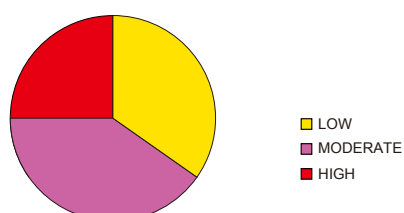
最近の数年間で私たちの病院では、およそ300人のウイルス性肝炎の患者の治療を行いました。慢性肝炎ですが、症状はさまざまでした。重症の患者は円グラフで赤、25%です。症状は重く、黄疸が出ており、血圧が上がり、外形的変化、つまり肝臓・脾臓の肥大が起こっています。さらに、多くの場合、肝硬変まで始まっています。第2グループは中程度の症状の患者、そして第3グループは軽症の肝炎患者で、最小限の症状しか出ていません。

スライド①では、病原体による患者の分類を紹介します。肝炎をそのウイルスの型によって分けてみたわけです。ごらんのとおり、B型とC型のウイルス性肝炎が多く見られますが、これはそれなりの理由があります。最近、麻薬中毒患者がウイルス性肝炎にかかる例が増加しています。麻薬の常用が原因となる肝炎患者の特徴は、体内に2種のウイルスが共存していることです。つまり、B型とC型です。ですから全体から見ても、B型とC型のウイルス性肝炎が占める割合が大きくなっているわけです。

そのほか、純粋なB型、また三重の形、つまりB、CとG型の共存も見られます。これはデルタ感染と呼ばれています。症例はさほど多くありません。それ以外にも、若者を中心にしてA型肝炎も見られます。つまりモスクワには、現代医学が知っている全ての肝炎ウイルスが存在しているわけです。私たちの病院でも、これら全ての肝炎の治療が行われています。

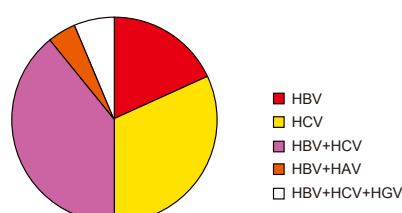
① 慢性肝炎の重症度

Severity of Chronic Hepatitis
(n=60)



② 病原体による患者の分類

Long-lasting Reconvalescence,
High Risk of Chronization
(number of patients, n=50)



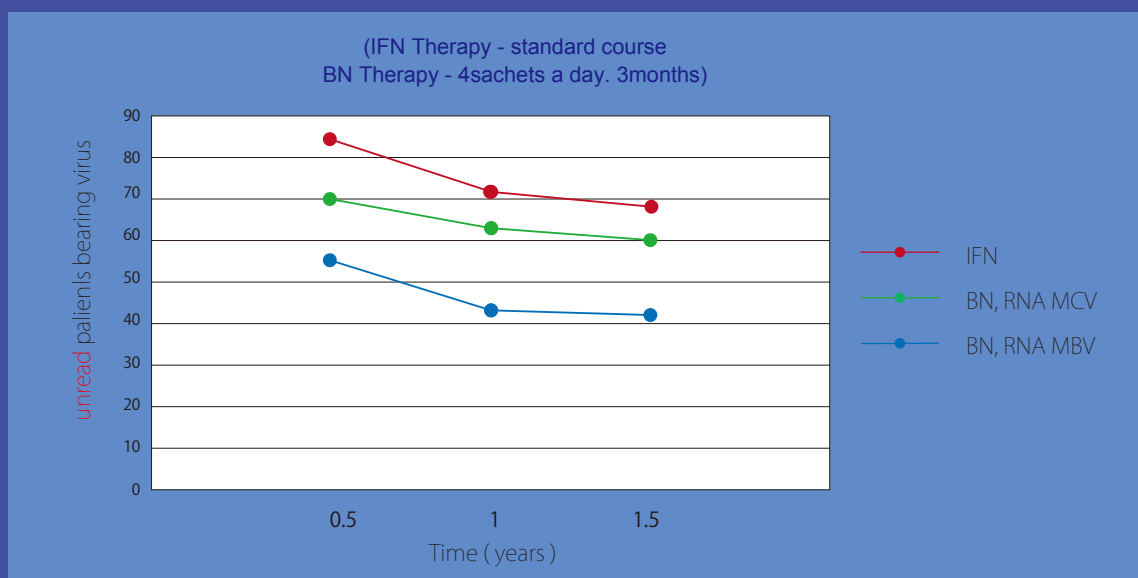
当然私たちは、患者を何とかして救いたいと願っているわけです。そこで、重症の肝炎患者にバイオ・ノーマライザーを使用して見たところ、中毒症状が急激に改善されたではありませんか。それは服用後、2昼夜ないし3昼夜後には頭痛が軽くなって、目まいがなくなり、まただるさが消えて、吐き気、嘔吐もなくなりました。患者は元気になり、気分がよくなり、病氣と闘う意欲がいてきました。肝機能障害の諸症状が軽くなり、数日後には黄疸が消え始めて、トランスアミナーゼの活性が低下したんです。バイオ・ノーマライザー以外の治療法と比較してみますと、1.5週間から2週間ぐらい、治療が早く進んだと言えるでしょう。

私たちは重症患者だけではなく、通院してくる比較的軽症の患者にも、このバイオ・ノーマライザーを試してみました。こうした通院患者の中には、ほかの病院を転々として、既にさまざまな治療法、またさまざまな薬を試してきた人もいました。そしてうれしいことに、結果は上々でした。多くの患者が、「空を飛ぶような気持ちだ」、また「力が湧いた」、そして「希望が湧いた」、また「普通に働けるようになった」と言っています。というわけで、私たちはバイオ・ノーマライザーを尊敬しているのです。

ではここで、特に重要で、特に象徴的なグラフをご紹介します。スライド③をごらんください。バイオ・ノーマライザーの効果をウイルス除去の面から見たグラフです。患者がバイオ・ノーマライザーを服用した場合、ウイルスの除去が、服用しないグループよりはるかに早く進んでいることがわかります。これはB型肝炎でもC型肝炎でも観察できます。この観察は、まだ続けられています。数カ月、1年にわたる効果を調べたいからです。

最後に申し上げたいことがあります。現在人類は、新たな感染症の時代を迎え、ウイルス性肝炎、エイズに苦しんでいます。さらに、麻薬汚染にも苦しんでいます。私どものイメージでは、この小さな惑星地球に、ロシアの伝説にある3つの頭を持つ竜が襲いかかってきたかのようです。1つ目の頭がウイルス性肝炎、2つ目がエイズ、3つ目が麻薬です。しかし、この日出る国日本に英雄の騎士があらわれました。大里博士です。博士は自分の刀、すなわちバイオ・ノーマライザーで、必ずやこの竜の首を切り落としてくださるでしょう。

③ バイオノーマライザーと IFN による肝炎ウイルス排除効果
EFFECTS OF BN & IFN IN HEPATITIS VIRUS ELIMINATION (N=30)



このレポートは1999年9月3日に岐阜県の長良川国際会議場で行われたバイオ・ノーマライザー開発30周年記念パネルディスカッション「バイオパシー理論による治療現場からの報告とバイオ・ノーマライザーの今後の可能性」をもとに作成しています。DVDの詳細は大里三旺研究所 (Osato Suno Research Institute 略称 OSRI) のウェブページをご参照ください。

http://osri.asia/lab/30th_anniversary#Redox